

## 平成30年度事業運営方針経営協議会開催

4月5日、名古屋地本は「平成30年度事業運営の基本方針」に基づく経営協議会を開催しました。会社側より基本方針に対する説明がされ、それに対し、山田委員長から組合側の主張を述べ協議を行いました。

### 平成30年度事業運営方針

「すべては安全のもとに」～安全を最優先に、信頼されるサービスの実践～

1. 安全・安定輸送の確保のための着実な取り組み
2. 親和感のある質の高いサービスの提供
3. 鉄道のプロとしての意識の醸成と一体感のある職場づくりの推進
4. 将来を見据えた業務遂行体制の構築に向けた取り組み

(具体的な項目については資料を参考にしてください)

### 山田委員長の主張

1. 昨年度は、事故が多発した年だった認識している。制輪子落失・のぞみ34号台車亀裂・東海道線パンタグラフ架線破損・高山線燃料漏れ・南紀号台車亀裂があった。組合は会社と議論してきているが、事故の責任をJR東海以外の第3者に責任を押しつけていると言わざるを得ない。のぞみ34号の新大阪～名古屋間を運転した経過・時系列は明らかにされていない。メーカーの責任で事態収拾とされているが、複合的な原因で亀裂が発生したと考え対策を講じるべきと考える。JR東海は、お客様の命を預かり事業をしており安全は最重要と考える。在来線においても車両整備を先読みして安全を講じるべきと考える。
2. タブレット導入に関して、JR東海労は規程類のペーパーレスを目的としてタブレット導入を要求してきた。導入されたタブレットはそれ以外の機能が多く付加され、私たちが望んでいたものとは全く別物であるのが現状である。タブレットを扱う運転士から導入して良かったという声が出るまで、勇気を持って運用を見直すべきである。
3. 年休失効が数年来問題になっている。会社全体で見れば年休消化率はそこそこの数字になっていると思われるが、乗務員区では時季変更により保存休暇、失効となっている。適正な要員配置であればこのような事態にはならないと認識する。何度も主張してきているが改善されない。早急に対策をとるように強く要望する。
4. 松阪駅汽笛亭が廃止され、所属していた東海労組合員4名全員が出向に出された。これは、東海労組合員をJR本体からの追放であり、組合の弱体化を狙ったものである。会社の施策で廃したのであれば、責任を持ってJR本体の職場への配転をすべきであった。

## 【主な議論】

### ・山田委員長の主張に対する回答

会社: 委員長の意見について回答していく。軸箱体の亀裂等は業務委員会で説明している。原因究明しそれぞれ対応している。お客様に迷惑を掛けないようにしていく。メーカーの指導もしていく。

組合: 車両不具合は経年劣化等いろんなことが重なり発生していると考え。車両の使用方、メンテナンス等の見直しも必要である。

会社: 運転士タブレットについては導入してよかったと声ができるようにしていきたい。

組合: 現状は問題が多い。本使用はいつからになるのか。

会社: 未定である。

会社: 年休は要員は適切と認識している。波動があり発給出来ないときもある。

組合: 運輸区では適切という実感がない。

会社: 汽笛亭については営業終了に伴う出向であり区別はない。

組合: 差別があったと主張している。

会社: そのようなことはない。

組合: 本体に残せる方については残すべきであった。

会社: 個人の件はこの場の議論にそぐわない。

組合: 今経協で示せる事業所廃止等施策はあるのか。

会社: 今、話できるものはない。その時々タイミングもあり続きとして不備があったとは認識しない。

組合: 事業運営の基本方針にうたわれている安定的、協調的かつ建設的な労使関係の充実になっていない。

会社: 適切に対応した。

### ・事業運営の基本方針について

会社: 事業運営の基本方針に対する質問はないか。

組合: リードの部分の「地域に根ざした」とは何か。

会社: 沿線地域を示している。キャンペーン、イベント等がある。

組合: イベントに協力していくと言うことか。

会社: 可能なものには対応していく。

組合: 快速みえは2両で混雑が発生している。細かいところを見ていないのではないか。

会社: 見ているが、全ての要望を受け入れることが地域に根ざしたということではない。

組合: 事故が発生すると各区所が新たにルールを決め区所により違いがある。会社はどのように思っているのか。

会社: 多発していれば付け加えるものもある。

組合: 確認過多になって前方注視に支障が出ている。対策で現場は混乱している。そこはどのように考えているのか。

会社: 両方、重要である。

組合:ホームにおける安全性向上とは、稼働柵のことなのか。

会社:大きな柱の一つである。金山はホーム補強をやっていく。刈谷は示すことは出来ない。

組合:稼働柵により基本動作が変わる。現場の意見を聞き決定すべきだ。

会社:まだ、実証試験中である。出された意見も含め考えている。

組合:試験中といえどもダイヤに影響がでないようにしていくべきである。

会社:そこも含めて対応している。

組合:2(5)「快適・安心なご利用環境の整備」とあるが、地方ではトイレがない駅も存在する。また、超優良企業のJR東海において未だに「くみ取り式」トイレが多い。駅施設の快適な利用の検討はされているのか。

会社:昨年も出された意見だが、資金に限りがある中でやっている。地方自治体と連携もしている。

組合:1(5)「車両不具合の未然防止・再発防止」は昨年より強めに打ち出しているが、最近の故障を踏まえての方針なのか。

会社:スタンスは変わっていない。

組合:バリアフリー、駅エレベーター設置の計画はあるのか。

会社:3000人以上利用客駅で今年度は緒川・西岡崎・三河三谷を計画している。

以上